






# インフォメーション・コーナー

## 平成 30 年（2018 年）7 月豪雨災害に関する農業農村工学会の取組み

平成 30 年 7 月豪雨災害の被災者の方々に対し心からお見舞い申し上げます。

農業農村工学会では、平成 30 年（2018 年）7 月豪雨災害に関する学会内の関連委員会および支部における調査団の結成や調査活動の連携を円滑化するとともに、調査結果等の情報収集・公表、復興支援対策を一元化するために平成 30 年（2018 年）豪雨非常災害対策本部（本部長は、災害対応特別委員会 委員長 青山 咸康京都大学名誉教授）を設置しました。

### 会 告

○研究部会長の交代について	79
○第 42 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第 3 報） 8 月 14～16 日開催	79
○こりゃ映像！2018—ミニ動画コンテスト— 動画募集期間を 8 月 20 日まで延長しました 応募締切 8 月 20 日	79
○平成 31 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再） 締切 10 月 31 日	80
○平成 30 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再） 申請締切 9 月 14 日	80
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	80
○学生会員入会時の特典について	81
○「送料」および「振込手数料」のご負担について 8 月 1 日から	81
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!	81
○平成 31 年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9 月 30 日	82
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	83
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018 年 7 月から 2020 年 6 月までの編集事務局について	83
○平成 30 年度東北支部総会・第 60 回東北支部研究発表会ならびに第 50 回東北支部研修会・ 第 40 回地方講習会の開催について（第 3 報）  発表申込締切 9 月 21 日	84
○第 73 回中国四国支部講演会ならびに第 42 回地方講習会の開催について（第 3 報）  講演原稿締切 8 月 31 日	85
○農村計画研究部会第 40 回現地研修集会の開催について  参加申込締切 8 月 31 日	86
○平成 30 年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦について 応募締切 9 月 28 日	87
○第 28 回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について（第 1 報）  発表申込締切 10 月 5 日	87
○第 31 回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催について（第 1 報）  発表申込締切 10 月 19 日	88
○公開シンポジウム「科学と市民と農業—科学技術イノベーションの役割—」の開催について 9 月 21 日開催	88
○第 21 回（2019 年）「日本水大賞」の募集について 応募締切 10 月 31 日	89
農業農村工学会論文集内容紹介	90
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	91
受入れ図書	93
文献目録	93
学会記事	97

## 第86巻第9号予定

展望：明治150年の用水管理と土地改良：佐藤政良

小特集：明治150年と農業土木

報文：明治期の近代的土地改良制度の成立過程と現在への示唆：野々村圭造

報文：明治時代に開削された明治用水の意義：竹内清晴

報文：北海道の拓地殖民と農業土木：長澤徹明

報文：明治・大正期の流域変更を伴うため池灌漑の形成要因：友正達美ほか

報文：明治用水土地改良区による水源林管理の意義の変遷と農林一体的な地域資源管理：内川義行ほか

報文：欧米人の目から見た明治期の耕地整理と耕地整理講義：藤本直也ほか

報文：山梨県八ヶ岳南麓の農業農村150年の変貌と今後：松本精一

報文：最上川土地改良区に見る明治150年の農業土木投資：元杉昭男ほか

報文：明治初期の土地改良事業における官と民の役割：芦田敏文

報文：企業の経営から始まった枝下用水：近藤文男ほか

報文：明治の偉人たちの疏水事業：門松經久

## 技術レポート

北海道支部：農道法面における点検診断手法の提案：長田公二ほか

東北支部：2016年台風10号による小本川下流域の洪水・氾濫再現の試み：長崎桃子ほか

東北支部：庄内砂丘地区における地下水解析検討事例：岩谷昇

関東支部：烏川地区における圃場整備と環境配慮：宮下康司ほか

京都支部：瓶原大井手用水路における暗渠水路補修事例：小西まど華ほか

中国四国支部：三村用水トンネルの改修：新見普文

九州沖縄支部：農地・農業用施設の災害復旧における測量・設計参考資料の改定：小野島英治ほか

講座：農業農村整備のための生態系配慮の基礎知識(9)

—生態系配慮に関する合意形成手法とその実践—：田代優秋

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちいたしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成30年8月14～16日	農業用水展示実行委員会	第42回「水の週間」水のワークショップ・展示会	すごいな！いのち育てる農業用水	東京都	86巻6,7号
平成30年9月4～7日	大会運営委員会	平成30年度農業農村工学会大会講演会 ⓑ	—	京都市	85巻12号 86巻1,4号
平成30年9月6～8日	農業農村工学サマーセミナー実行委員会	サマーセミナー2018	平成ラストの若手交流、話したいことを話そう～日本の農業とセミナーの今後～	京都市	86巻6,7号
平成30年9月18日	農村計画研究部会	第40回現地研修集会 ⓑ	歴史の中に生きること	近江八幡市	86巻8号
平成30年10月18, 19日	中国四国支部	第73回講演会・第42回地方講習会 ⓑ	—	松江市	86巻6,7,8号
平成30年10月25, 26日	九州沖縄支部	平成30年度支部大会 ⓑ	—	熊本市	86巻4,7号
平成30年10月26日	土壌物理研究部会	第57回研究集会 ⓑ	土壌環境と気候変動(仮)	札幌市	86巻5,6号
平成30年11月1, 2日	東北支部	平成30年度総会・第60回研究発表会・第50回研修会・第40回地方講習会 ⓑ	—	山形市	86巻6,7,8号
平成30年11月1, 2日	農村道路研究部会	第28回研究集会・現地研修会 ⓑ	防災・減災への農村道路の役割(仮)	鹿児島市	86巻8号
平成30年11月7日	関東支部	第69回支部大会 ⓑ	—	甲府市	86巻6,7号
平成30年11月7, 8日	京都支部	第75回研究発表会 ⓑ	—	名古屋市	86巻4,6号
平成30年11月8, 9日	農地保全研究部会	第39回研究集会・現地研修会 ⓑ	未来に繋ぐ農業農村の新しい整備・保全の取り組み(案)	那覇市ほか	86巻6号
平成30年11月20～22日	農業農村工学会ほか	PAWEES-INWEPF 国際会議 奈良2018 ⓑ	SDGsに向けた持続的な水田農業	奈良市	86巻1,3号
平成30年11月30日～12月1日	水文・水環境研究部会	第31回シンポジウム ⓑ	—	稲敷郡阿見町	86巻8号

## 研究部会長の交代について

下記のとおり研究部会長が交代しました。

記

農村道路研究部会（平成 30 年 5 月 1 日付）  
 新部会長 鈴木哲也（新潟大学農学部教授）  
 前部会長 服部俊宏

応用水理研究部会（平成 30 年 6 月 1 日付）  
 新部会長 稲垣仁根（宮崎大学農学部教授）  
 前部会長 平松 研

## 第 42 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第 3 報）

「水のワークショップ・展示会」は例年同様「水の週間」のイベントの一つとして行われます。

今年も昨年までと同様に、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、関係団体の協力を得て、農業用水分野として展示の準備を進めております。昨年と同様に東京国際フォーラムで開催される丸の内キッズジャンボリーのイベントの一つとして出展します。

多くの方のご来場をお待ちしております。

記

1. 会 期 平成 30 年 8 月 14 日（火）～16 日（木）

10：00～17：00

2. 場 所 東京国際フォーラム G 棟 701
3. 主 催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会
4. 全体テーマ 教えて！水のこと！～水の大辞典～
5. 農業用水テーマ すごいな！いのち育てる農業用水
6. 展示内容

学生によるワークショップ、iPad アプリによるゲーム・クイズ、パネル展示、田んぼの生き物水槽など

※学生によるワークショップは 8 月 16 日午後になります。

## こりゃ映像！ 2018 — ミニ動画コンテスト — 動画募集期間を 8 月 20 日まで延長しました

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

平成 30 年度のテーマは「私のかんがい施設遺産（仮）」です。「かんがい施設」とは、農地に水を配るために使われている施設で、ため池や水路、堰などです。私たちの周りには、歴史あるかんがい施設が今も変わらず使い続けられています。中でも、世界に誇るかんがい施設として 27 カ所のかんがい施設が「世界かんがい施設遺産」に登録されています。

今年のこりゃ映像では、そのような「世界かんがい施設遺産」を代表とする身の回りの歴史あるかんがい施設を対象に動画を募集したいと思います。身の回りの歴史あるかんがい施設の魅力を 60 秒に込めて You Tube にアップロードしてください。

1. 平成 30 年度のテーマ 「私のかんがい施設遺産（仮）」
2. 動画の制限時間 60 秒以内
3. 応募締切 平成 30 年 8 月 20 日（月）に変更しました。
4. 応募資格 なし（どなたでも応募できます）
5. 応募方法 動画を YouTube へ指定されたタグを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品を決定する。
7. 賞 金 最優秀賞（1 作品） 2 万円

優秀賞（2 作品） 各 1 万円

### 8. アップロード方法

- ① 動画を作成する。
- ② YouTube にアップロードする。
- ③ タグに 3 つのワード（jsidre2018, こりゃ映像, 私のかんがい施設遺産）を入れる。
- ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
- ⑤ 下記の情報を広報委員会動画 WT（jsidre.eizo@gmail.com）宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube 動画の URL）

### 9. こりゃ映像 2017 結果（テーマ：農業用水）

最優秀賞：【農業用水】人と自然の力

弘前大学農学生命科学部地域環境工学科 4 年 山口裕里絵

[https://www.youtube.com/watch?v=y5J1-Ox\\_S7A](https://www.youtube.com/watch?v=y5J1-Ox_S7A)

優秀賞：私の町の農業用水

岩手大学農学部農学生命課程 3 年 瀧田耀平

<https://www.youtube.com/watch?v=owtqvopLgzA>

優秀賞：こりゃ映像 2017 金沢工業大学 徳永研究室

金沢工業大学 徳永研究室修士 1 年 笹原弘道

<https://www.youtube.com/watch?v=uP0Ra69-BRo>

## 平成31年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

平成31年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、本誌第86巻第6号80～81ページ掲載の募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、平成30年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

## 平成30年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再）

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度（原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は平成30年9月14日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

### 「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

る。

- (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
- (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
- (ハ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

### 「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成30年9月14日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

### 必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名）
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

## 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交

流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

### 学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

#### ①ハンドブック3点セット

（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）

学部生 17,000円（15,750円）

大学院生 19,500円（16,750円）

#### ②必携3点セット

（必携＋用語事典＋初年度会費）

学部生 7,000円（5,750円）

大学院生 10,000円（7,250円）

#### ③2点セット

（用語事典＋初年度会費）

学部生 5,000円（3,750円）

大学院生 8,000円（5,250円）

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail : suido@jsidre.or.jp

### 「送料」および「振込手数料」のご負担について

宅配便や郵便の料金値上げに伴い、従来学会負担としていた以下の「送料」および「振込手数料」について、平成30年8月1日からご購入者の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

#### ①学会が発行する刊行物の「送料」の一部負担

・購入図書1冊につき

送料200円（600円を上限とする）

ただし、代金引換の場合は送料の実費を負担いただきます。

#### ②技術者継続教育機構が発行する次の代金の「振込手数料」（送金手数料）

・CPD取得証明書

・再発行のCPD個人登録者証

### 学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

#### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

#### 2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

#### 3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

#### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌8月号掲載の問題は9月末日が解答期限）

#### 5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

#### 6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

## 平成 31 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 31 年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真を基本に表紙を飾ることとします。なお、平成 30 年発行までの本趣旨を若干変更いたしました。平成 31 年に学会は創立 90 周年を迎えます。記念すべき年の表紙を飾る魅力ある写真をふるってご応募ください。

### 趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は稲作農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業（水利）施設は、水田を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の食生活と文化などを支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然、地勢や地形に溶け込み、地域の文化を育み農村地域の景観を形成する重要な構成要素となっています。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。また、現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の形態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物（国外においては日本の関連技術が適用された事例）の匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、広く学会員にご紹介ください。

### 記

#### 1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：先人たちや現代の技術と苦労が垣間見える造形美・用の美」

#### 2. 対象巻号

学会誌第 87 巻（平成 31 年 1～12 月号）

#### 3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送って

ください。形式は JPEG のみに限定します。

#### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締切

夏季 平成 30 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限り

#### 6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

#### 7. 結果発表

学会誌第 87 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 31 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

#### 8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 「Cover History（表紙写真由来）」執筆について

採用作品の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」としてご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが別途原稿料をお支払いします。

#### 10. 著作権・出版権

採用作品の著作権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

#### 11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

#### 12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第 86 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 縮 切 (A 4 判 1,500 字以内)
第 86 巻第 9 号 明治 150 年と農業土木 (仮)	公募終了
10 号 SDGs と農業農村工学 (仮)	公募終了
11 号 中山間地域の将来を見据えて (仮)	公募終了
12 号 水田圃場を「フル」に活用するためのビジョンとそれを支える技術開発 (仮)	公募終了
第 87 巻第 1 号 創立 90 周年を迎えるにあたって (仮)	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4  
(公社)農業農村工学会  
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて  
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494  
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと  
2018 年 7 月から 2020 年 6 月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017 年のインパクトファクター (IF) は過去最高の 1.379 となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)

⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)

⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界 14 カ国から Editor (18 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方、2018 年 7 月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)  
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ Editors 14 カ国から 19 名
- ・ Editorial Advisors 30 名
- ・ Chief Managing Editor  
Dr. Kimihito NAKAMURA  
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- ・ Managing Editors  
Dr. Jin-Yong CHOI  
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea  
Dr. Inhong SONG  
Department of Landscape Architecture and Rural

Systems Engineering, Seoul National University, Korea  
**Dr. Chihhao FAN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
 National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Kuo-Wei LIAO**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
 National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Hiroshi IKEURA**

Rural Development Division, Japan International  
 Research Center for Agricultural Science (JIRCAS),  
 Japan

**Dr. Andrew WHITAKER**

Graduate School of Science and Technology, Niigata  
 University, Japan

編集事務局 (2018年7月から2020年6月まで)

・ **Dr. Kimihito NAKAMURA**

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan  
 Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502,  
 JAPAN

TEL : + 81-75-753-6156

FAX : + 81-75-753-6476

E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になり  
 ます。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者である  
 こと。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載してい  
 ます。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず  
 農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度  
 からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっていま  
 す。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局

平成30年度東北支部総会・第60回東北支部研究発表会ならびに  
 第50回東北支部研修会・第40回地方講習会の開催について (第3報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 平成30年11月1日(木), 2日(金)

2. 会 場 大手門パルズ

〒990-0044 山形市木の実町12-37

TEL : 023-624-8600

JR山形駅東口から徒歩 約12分

3. プログラム概要

[第1日目] 11月1日(木)

(1) 支部総会・研究発表会 [会場: 大手門パルズ]

9:00~9:30 受付

9:30~10:15 支部総会

10:15~10:45 支部賞授賞式

10:45~11:00 休憩

11:00~12:00 特別講演

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~17:30 第60回支部研究発表会

(2) 情報交換会 [会場: 大手門パルズ]

18:00~20:00

[第2日目] 11月2日(金)

(3) 支部研修会・地方講習会 [会場: 大手門パルズ]

9:30~10:00 受付

10:00~12:00 第50回支部研修会

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~15:30 第40回地方講習会

4. 支部大会参加申込方法

(1) 参加申込み

「参加申込書」に必要事項を記入し、所属機関ごとに取り  
 まとめのうえ、E-mailにてお申し込みください。

申込様式は東北支部ホームページよりダウンロードで  
 きます。(http://www.jsidre.or.jp/tohoku/)

(2) 参加申込み受付期間

平成30年8月20日(月)~10月5日(金)

(3) 参加費

総会・研究発表会 3,000円(学生会員1,000円)

情報交換会 5,000円(学生会員3,000円)

支部研修会・地方講習会 4,000円(非会員5,000円)

(4) 参加費の納入方法

参加申込みと同時に次の銀行口座に全額前納で振込み  
 (振込手数料は、振込人負担)をお願いします。

【振込先】

銀行名: ゆうちょ銀行 (金融機関コード9900)

店 名: 八二八 (店番号: 828)

口座番号: 普通預金 1803103

口座名: 公益社団法人農業農村工学会東北支部事務局

シャ) ノウギョウノウソンコウガクカイトウホ

クシブジムキョク

【留意事項】

振込元が申込書と照合できるように、所属・氏名等を必



ず記入してください。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

(5) 参加申込み先および問合せ先

農業農村工学会東北支部事務局  
山形県農林水産部農村整備課 吉田, 三原  
〒990-8570 山形市松波 2-8-1  
TEL : 023-630-2416  
E-mail : ynoseibi@pref.yamagata.jp

5. 研究発表の申込み

(1) 申込み・原稿受付期間

平成 30 年 8 月 20 日 (月) ~ 9 月 21 日 (金)

(2) 申込み・問合せ先

〒997-8555 鶴岡市若葉町 1-23  
山形大学農学部食料生命環境学科 石川まで  
Email : ishikawa@tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp

(3) 要領

研究発表要旨集原稿の書き方、投稿票ファイルおよび発表の方法については、農業農村工学会東北支部のホームページに掲載していますので、ご参照ください。

6. 宿泊について

宿泊施設の斡旋はいたしませんので、ご了承ください。

第 73 回中国四国支部講演会ならびに第 42 回地方講習会の開催について (第 3 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 程

(1) 支部講演会

日時：平成 30 年 10 月 18 日 (木) 10 : 00 ~ 17 : 00  
会場：くにびきメッセ  
〒690-0826 鳥根県松江学園南 1-2-1  
TEL : 0852-24-1111 FAX : 0852-22-9219

プログラム

受付開始 9 : 30 ~  
開会式 10 : 00 ~ 10 : 15  
支部表彰式 10 : 15 ~ 10 : 25  
特別講演 10 : 40 ~ 12 : 00  
※演題等は調整中。決定次第、中国四国支部ホームページでお知らせします。  
<昼食 12 : 00 ~ 13 : 00 >  
一般公演 13 : 00 ~ 17 : 30  
第 1 会場 3 階 国際会議場  
第 2 会場 5 階 501 大会議室  
第 3 会場 4 階 401 会議室

(2) 情報交換会

日時：平成 30 年 10 月 18 日 (木) 18 : 00 ~ 20 : 00  
会場：松江ニューアーバンホテル 別館 2 階 湖都の間  
TEL : 0852-23-0003  
※講演会会場から送迎バスにて送迎いたします。

(3) 地方講習会

日時：平成 30 年 10 月 19 日 (金) 9 : 00 ~ 12 : 00  
会場：くにびきメッセ (1 階 小ホール)  
プログラム  
受付開始 8 : 30 ~  
講習会 9 : 00 ~ 11 : 40  
開会式 11 : 45 ~ 12 : 00  
※テーマは調整中。決定次第、中国四国支部ホームページでお知らせします。

2. 講演申込み

(1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを含めて 1 課題 3 ページ以内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページの支部のページ (<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>) に掲載している講演原稿の書き方に従って原稿を作成し、原稿を PDF にしたファイルと投稿票 (前記支部のページからダウンロードできます) をメールにより下記の講演申込先までお送りください。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」としてください。受領確認はメールで返信を行います。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演者 (○印) の方は必ず連絡先メールアドレスをお書きください。

(2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも 1 名は学会員であることが必要です。

(3) 講演方法

個人発表とし、講演補助として液晶プロジェクター、パソコン、パワーポイントを準備します。

(4) 講演時間

1 課題につき 15 分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みのあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

(6) 原稿の締切り

平成 30 年 8 月 31 日 (金) 必着でお願いします。

(7) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

鳥根大学生物資源科学部 深田耕太郎  
〒690-8504 鳥根県松江学園西川津町 1060  
TEL : 0852-32-6550  
E-mail : fukada@life.shimane-u.ac.jp

## 3. 参加申込方法

## (1) 参加申込書

参加申込書については、以下の申込様式に従い、所属機関ごとにまとめてメールにより下記(2)までお送りください。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会申込み」としてください。なお、様式は、学会ホームページの支部のページ (<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>) からダウンロードできます。

## 【申込様式】

第73回中国四国支部講演会ならびに第42回地方講習会申込書

所属機関名:	
所在地:(〒 - )	
連絡者名(ふりがな):	
電話番号:	
FAX番号:	
E-mailアドレス:	

所属	氏名	ふりがな	講演希望	【10月18日】			【19日】	合計	備考
				講演会参加費	昼食	情報交換会	地方講習会		
				一般: 2,000円 学生: 1,000円	一般: 1,000円 学生: 1,000円	一般: 5,000円 学生: 5,000円	一般: 2,000円 学生: 無料	(円)	
合計									

## (2) 講演会・情報交換会・講習会申込窓口・問合せ先

鳥根県農林水産部農村整備課 綿貫・福島・竹谷  
〒690-8501 鳥根県松江市殿町1

TEL: 0852-22-5142 FAX: 0852-31-6274

E-mail: nouson@pref.shimane.lg.jp

※参加窓口と原稿提出窓口を別にしていますので、ご注意ください。

## (3) 申込締切日 平成30年9月6日(木)

## (4) 参加費等

1) 講演会参加費【一般:2,000円, 学生:1,000円】  
※講演者をはじめ、講演会に参加される方はお支払いください。

2) 昼食代【一般:1,000円, 学生:1,000円】

3) 情報交換会【一般:5,000円, 学生:5,000円】

4) 地方講習会【一般:2,000円, 学生:無料】

## (5) 参加費等の納入方法

原則として、参加申込みに併せて次の銀行口座に全額前納でお振込みをお願いします。振込手数料については、振込人負担をお願いします。

また、振込み元がわかるように、所属・氏名等は必ずご記入ください。

なお、振込み後の参加費等の返金については、原則応じられませんのでご注意ください。

## 【振込口座】

○銀行名: 山陰合同銀行 県庁支店

○店番号: 005

○口座番号:(普通) 3675262

○名義人: 農業農村工学会中国四国支部 鳥根県実行委員会 事務局 会計 綿貫純也

(ノウギョウノウソンコウガクカイチュウゴクシコクシブ シマネケンジッコウイインカイジムキョク カイケイ ワタスキジュンヤ)

## (6) 宿泊案内

宿泊の斡旋・手配等はいりませんので、各自でのご対応をお願いいたします。

## 農村計画研究部会第40回現地研修集会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



## 1. 主催 農業農村工学会農村計画研究部会

協賛 農村計画学会

後援 調整中

## 2. 期日 平成30年9月18日(火)

## 3. 場所 滋賀県近江八幡市

## 4. テーマ 歴史の中に生きること

## 5. 趣旨

滋賀県近江八幡市では、農村地域において重要文化的景観「近江八幡の水郷」の指定による水田やヨシ地景観の保全、旧市街地での伝統的建造物群保存地区の指定など、歴史の流れの中で生きる地域が存在しています。

そこで、農業農村工学会農村計画研究部会では、近江八幡市において、水郷景観形成と保全に関する歴史的な経緯から現状、今後の課題までを、圃場整備、干拓、河川改修、生活文化、グリーンインフラといったキーワードのもとで視察する現地研

修集会を開催いたします。活動に関わられている関係者から直接お話をうかがい、現地を体験できる貴重な機会となります。皆様方の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

なお、本現地研修集会は農業農村工学会大会講演会中に開催される企画セッション「歴史の中に生きること」と連動した企画です。

## 6. 行程(予定)

8:40 京都駅八条口駅前広場サンクンガーデン大階段集合

8:55 京都駅 出発

10:20 近江八幡市日牟禮八幡(旧市街)到着

10:30~11:30 八幡堀・旧市街の伝統的建造物群保存地区見学

11:30~12:20 日牟禮茶屋で昼食(1,620円)

12:30~15:00 西の湖・白王町(大中ノ湖も含む)・円山

町など(車中見学・解説)

15:00~16:30 権座に渡る

17:00 近江八幡市出発

18:20 京都駅八条口到着 解散

### 7. 参加費・参加申込み

#### (1) 参加費(昼食代を含む)

一般7,000円程度, 学生4,000円程度

当日集合場所にて現金で集金(現金払いが不能な方は、

申込書にその旨ご記載ください。)

#### (2) 参加申込み

申込期限:平成30年8月31日(金)まで

申込方法:農村計画研究部会 Web ページ (<http://www.jsidre.or.jp/keikaku/>) より参加申込書ファイルをダウンロードし、申込先へ電子メールで送信

申込先:農村計画研究部会 現地研修集会担当

石川県立大学 山下良平

E-mail: r-yama@ishikawa-pu.ac.jp

変更・取消し:平成30年9月10日(月)までに申込先へ連絡

## 平成30年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦について

材料施工研究部会では、平成15年2月発刊の図書「建設材料-地域環境の創造-」の出版記念行事の一環として「研究奨励基金」を設け、材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できる優れた研究成果をあげた学会員を表彰いたします。平成30年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞の候補を下記の要領で公募いたしますので、会員各位には自薦または他薦による応募をお願いいたします。

なお、過去の受賞者は本部会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/zaiseko/>) をご参照ください。

### 平成30年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞募集要領

#### 1. 受賞対象者

本研究奨励賞は、農業農村工学の材料施工関連分野において優れた研究成果をあげた者に与えられる。

##### 1.1 対象研究業績

当該前年度または前々年度に発行された農業農村工学会論文集および学会誌、農業農村工学会大会講演会、材料施工部会シンポジウムの材料施工関連分野で発表された研究であること。

(1) 研究成果が材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できること。

(2) 材料施工関連分野とは、材料、施工、応用力学および土質力学を指す。

##### 1.2 受賞対象者の資格

(1) 農業農村工学会の正会員または学生会員であること。

(2) 対象となる研究業績の主体者でかつ発表者または第一著者であること。

(3) 既受賞者は3年間選考対象から除く。

#### 2. 応募資料

##### (1) 推薦書

本部会ホームページの奨励賞推薦書 ([http://www.jsidre.or.jp/zaiseko\\_suisen/](http://www.jsidre.or.jp/zaiseko_suisen/)) から推薦書をダウンロードし、必要事項を記入すること。推薦書は1ページ以内にまとめること。

##### (2) 対象となる研究業績の別刷り

※ (1), (2) いずれもPDFを下記部会長宛てに送信すること。

#### 3. 応募締切 平成30年9月28日(金)

#### 4. 応募先・問合せ先

〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立2-2-1

宮城大学食産業学群内

材料施工研究部会 部会長 北辻政文

TEL: 022-245-1426 E-mail: kitatsuj@myu.ac.jp

#### 5. 審査

農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞選考委員会が審査し、幹事会により決定する。

審査結果は、別途受賞者に通知する。

#### 6. 表彰

受賞者には、平成30年11月に開催予定の本研究部会シンポジウムにおいて表彰するとともに副賞を授与する。また、表彰の結果は部会報などで公表する。

## 第28回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 平成30年11月1日(木) 研究集会

平成30年11月2日(金) 現地研修会

#### 2. 研究集会

(1) 会場: 鹿児島県 かがしま県民交流センター

〒892-0816 鹿児島県鹿児島市山下町14-50

<http://www.kagoshima-pac.jp/>

(2) 特定課題: 防災・減災への農村道路の役割(仮題)

・招待論文: 特定課題

・研究論文: 特定課題および農村道路に係わる研究課題

・技術報文: 農村道路に係わる調査・計画・施工の自由課

## 題

- (3) 参加費 3,000円(テキスト代)

当日、受付にて徴収させていただきます。

## 3. 現地研修会 鹿児島県内を計画中

## 4. 発表申込み

- (1) 研究集会で研究論文、技術報文を発表するためには発表申込みを行う必要があります。発表申込みおよび原稿作成要領は、農村道路研究部会ホームページよりダウンロードすることができます。
- (2) 発表申込みは、発表申込書に必要事項記入の上、E-mailに添付して申込み先に提出してください。表題は「農村道路研究部会研究集会の発表申込み」としてください。
- (3) 発表申込期限 平成30年10月5日(金)
- (4) 原稿提出期限 平成30年10月19日(金)

## 5. 参加申込み

以下の項目をご記入の上、FAXもしくはE-mailにてお申し込みください。その際、表題は「農村道路研究部会・研究集会への参加申込み」と明記してください。

- ①参加者氏名 ②所属機関名 ③所在地 ④TEL, FAX, E-mail アドレス ⑤CPD個人登録者番号(登録希望の方)

## 6. 参加申込締切 平成30年10月22日(月)

## 7. 申込み・問合せ先

〒034-8628 青森県十和田市東二十三番町35-1  
北里大学獣医学部気付 農村道路研究部会事務局  
申込受付担当: 島本由麻  
E-mail: shimamoto@vmas.kitasato-u.ac.jp

8. 宿泊 各自で手配していただきますようお願いいたします。
9. その他 詳細は、学会誌次号に掲載予定です。

## 第31回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



水文・水環境研究部会は、第31回水文・水環境研究部会シンポジウムを下記のように開催します。詳細は、本誌10月号に掲載予定の第2報をご覧ください。

1. 期日 平成30年11月30日(金)~12月1日(土)

2. 場所 茨城大学農学部 こぶし会館

〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1

<http://www.agr.ibaraki.ac.jp/access/campas.html>

## 3. 研究発表の申込締切り

- (1) 10月19日までに発表者、仮タイトル、査読の有無を申込み先までお知らせください。

- (2) 11月9日までに原稿を下記提出先に提出ください。

- (3) 原稿フォーマットは部会ホームページに掲載してありますので、そちらを参照ください

[http://www.jsidre.or.jp/suimon-mizukankyo\\_journal/](http://www.jsidre.or.jp/suimon-mizukankyo_journal/)

## 4. 申込み・原稿提出および問合せ先

水文・水環境研究部会

〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1

茨城大学農学部 吉田貢士

TEL: 029-888-8600 FAX: 029-888-8600

E-mail: koshi.yoshida.agri@vc.ibaraki.ac.jp

## 公開シンポジウム「科学と市民と農業—科学技術イノベーションの役割—」の開催について

わが国の食料生産技術は、小規模田畑の高度な群管理システムとして発展しつつあり、経営規模の大小にかかわらず、食の安全の基盤技術として国際的にも注目を集めつつある。一方で、高齢化や労働力不足および農山村の過疎化の進行は、持続的な農業基盤を崩す危険信号であると指摘されて久しい。また、農産物輸入の増大や食品事故の多発など、食品の素性や安全に対する消費者の関心がかつてなく高まっている。このような中で、技術開発現場から食の消費に至るさまざまな利害関係者が課題を共有して食の安全を担保する社会システムの構築が求められている。ここに科学技術の重要な役割と期待がある。本シンポジウムでは、生産者や流通業者、そして消費者の間の情報共有の考え方と仕組み、農村地域の意識、生産者間の技術と知識の共有、新技術の開発と翻訳、などの事例を通じて、食料科学分野の学術的発展および研究開発のさらなる進展を図るため、各界で活躍する多才な研究者を招き、広く意見聴取な

らびに学術交流を行う。

1. 主催 日本学術会議食料科学委員会農業情報システム学分子会、日本生物環境工学会、東京農工大学大学院農学研究院農業環境工学部門

後援(申請中) 農業農村工学会ほか8学協会(予定)

2. 日時 平成30年9月21日(金) 13:00~17:00

3. 場所 東京農工大学府中キャンパス大講堂

4. テーマ 科学と市民と農業  
—科学技術イノベーションの役割—

5. 参加費 無料

6. プログラム

「SDGsにおける科学技術コミュニケーションの役割(仮)」

日本学術会議副会長、

国立研究開発法人科学技術振興機構副理事 渡辺美代子

「ノウハウと技術の結晶である農作業の翻訳(仮)」

日本学術会議第二部会員、  
東京農工大学大学院農学研究院教授 澁澤 栄  
「地域農業の担い手にいかに登場してもらうか (仮)」  
東京農工大学大学院農学研究院准教授 中島正裕  
「農業情報共有の技術と仕組み：本庄プロジェクトのめざす  
もの (仮)」  
NEC ソリューションイノベータ(株) 主席アドバイザー  
島津秀雄

「ブルーベリー果実の周年収穫技術の開発と普及 (仮)」  
東京農工大学理事・副学長 荻原 勲  
総合討論  
7. 問合せ先  
E-mail : jsabees2018@adthree.net  
8. ホームページ  
[https://sympo.adthree.net/jbaees/p\\_sympo.html](https://sympo.adthree.net/jbaees/p_sympo.html)

## 第 21 回 (2019 年) 「日本水大賞」の募集について

### 1. 目的

日本水大賞は、21 世紀の日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与することを目的としています。

### 2. 対象範囲

#### (1) 対象となる活動分野

水循環系の健全化や水災害に対する安全性の向上に寄与すると考えられる活動で、水防災、水資源、水環境、水文化、復興のような分野における諸活動(研究、技術開発を含む)を対象とします。

#### (2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、学校、企業、団体、個人、行政の方々が実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

### 3. 日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して以下の賞を授与し、広く公表します。なお、副賞は受賞活動をさらに継続・発展していただくよう授与しています。

①大賞【グランプリ】(賞状・副賞 200 万円)

②大臣賞(賞状・副賞 50 万円)

【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】

【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】

ほか

### 4. 選定の方法等

日本水大賞委員会のもとに、上記の賞を選考するために審査部会を設置し、表彰対象となる活動を審査し、最終的には日本

水大賞委員会が決定します。

### 5. 募集期間

平成 30 年 7 月 7 日(土)～10 月 31 日(水)(郵送の場合は当日消印有効)

### 6. 応募方法

応募用紙(3 枚：ホームページからダウンロードしてください)に必要事項をご記入の上、応募用紙および添付資料を送付または持参してください。応募用紙および添付資料が電子データの場合は、E-mail でも応募を受け付けます。

応募方法の詳細はホームページを参照してください。

### 7. 主催等

#### (1) 主催 日本水大賞委員会

名誉総裁 秋篠宮文仁親王殿下

委員長 毛利 衛(日本科学未来館館長)

国土交通省

#### (2) 後援(予定) 内閣官房水循環政策本部、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、(公社)農業農村工学会 ほか 33 団体

#### (3) 協賛(予定) 「川の日」実行委員会ほか 4 団体

### 8. 送付先・問合せ先

(公社)日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5 麹町 E.C.K ビル 3 階  
TEL : 03-3238-9771 FAX : 03-3288-2426

E-mail : taisyo@japanriver.or.jp

担当 : 上田(平日 9 : 15～17 : 30)

ホームページ : <http://www.japanriver.or.jp/taisyo/>